



## 中央委員会 ～当面の闘争方針を決定～

1月26日、第408回中央委員会が開催されました。議長に東部支部・横山（卓）中央委員、南部支部・横山（容）中央委員が選出され、議事が進められました。執行部より「当面の闘争推進に関する件」「2022年度上半期一般会計並びに特別会計決算報告」の提案と会計監査報告がありました。質疑では東部支部・有田中央委員より「欠席連絡アプリについて、すでに導入している学校は、そのまま使えるのか？」という質問があり、執行部からは「全市一斉で同じアプリを使うので、違う会社が選定されたら変更の必要がある。」との答弁がありました。討論には4人が参加し、現場での実践や専門部の取り組みが報告されました。採決では執行部原案が圧倒的多数の賛成により可決・承認されました。

### ＝ 討論参加者 ＝

神吉中央委員（北部支部）ウクライナの子どもが5人いる。支援員の予算は付いたが、人は学校で探してくれとのこと。区役所が汗をかき、阪大に留学している方を紹介してくれて、すごく助かっていたが、就職活動で2月からは来れない。市長は受け入れを宣言しながら、後は現場に丸投げ。行政は責任をもって、最善の教育環境も保障すべきだ。



中世古中央委員（北部支部）欠席連絡アプリをすでに導入している。朝、35冊の健康連絡票をチェックしなくてすむようになったのは助かるが、簡単に欠席連絡できることで、不登校の児童がより来なくなった気がする。便利なモノに頼るだけでなく、地道な家庭訪問を！一人ひとりの子どもを大切にする教育を今こそ広げていきましょう。



齋藤中央委員（養護教職員部）養護教職員部の交流・学習会を開催。市教委から通知があった生理用品の提供方法などについて、どの学校でも悩んでいる問題だけに多くの意見が交わされました。組織拡大をはかるために、未組合員の方にも参加を呼びかけたところ、交流・学習会に参加していただき組合にも加入してくれました。



藤澤中央委員（栄養教職員部）第1回栄養教職員部 全体集会を開催。事務長が民間委託実施校や親子方式実施校について説明し、小グループでの意見交換を行いました。民間委託の問題点や食物アレルギー対応の課題など、多くの意見が出され、栄養教職員の職務がスムーズにすすむよう、今後の運動の方向性が確認され、実りある集会となりました。



## E-com おおさか 対市交渉



### 大阪市の教育改革や教育行政のあり方について、市当局を質す！

1月27日、大阪市教育活動ネットワーク（E-com おおさか）の大阪市との交渉が行われ、市教組からも代表が参加しました。交渉では、子どもたちの教育環境の向上や、教育行政のあり方をテーマに協議が進められました。

冒頭、昨年6～7月に行われた人権教育主催者へのアンケート結果をもとに、各学校で人担を担っている教員について、教職5年以下が2割近くを占めること、特に新採用が14人もいることを問題提起しました。市教委から「若手が担わざるを得ない実態は教育委員会としても把握している。仕事が円滑にすすむよう、主催者研修を通じてサポートしている。また、校内で管理職が中心となって人権教育を広げていくことを、研修等で指導している。」との回答がありました。しかし、「校内で人権教育の実践や研修を企画・提案するだけでなく、対外的な調整も行う重要な役割であることを管理職が認識していない。多くの学校で転勤1年目の教員が任されたり、年度ごとに人担が変わる実態から見ても明らかだ。」との意見が出ました。

その他、人権教育実践の継承や帰国・渡日等の子どもたちが急増・多国籍化していることともなう課題、大阪が先駆的に行ってきた原学級保障の継続、子どもの権利や深刻化している子どもの貧困とヤングケアラーに関する課題、いじめや不登校の問題、大阪市の教育改革については、全国学テの公表や学校選択制による弊害、チャレンジテストによって「自分が受けたら平均が下がって迷惑をかけてしまう」との思いをもつ生徒の存在、すすくウオッチで疲弊している児童のことなど、多岐に渡って協議を行いました。

鈍い回答が多かった中、子どもの貧困に関わって、「給食費無償化を時限的な措置ではなく、恒久的な制度とすること」という要求については、「検討している」との前向きな回答を勝ち取りました。

### 広報部メモ

2013年から毎年数回は福島県に行くようになった。宮城・岩手にも何度か行った。それまでは東北に行ったことはなかったが、行く度に人と出会い、知人も増えた。今年も会いたいと思うようになった。特に何をしているわけではないが、そこへ行き、新しくできた友人たちに会い、その場の雰囲気を感じて写真を撮り続けてきた。

大阪にいたら「復興したんじゃないの？」とってしまうが、現実はそのようなものではない。伝える側の都合で切り取られたことしか伝わっていない。せめて自分の見てきた事実だけでも伝えたいと思い続けてきた。今年も3月にアネックスパル法円坂でフクシマの写真展を開催する。少しでも多くの人に伝わればと思う。

3月の組合費の引き落としは

**3月20日(月)**

※働きがいのある職場を実現  
するため、なかまの声かけて  
組合員を増やしましょう！



## 専門部 交渉

2月7日、事務職員部・養護教職員部・栄養教職員部・幼稚園部の交渉を行いました。少数職種独自の課題や現場の実態、職場環境の改善を市当局に訴えました。

1月28日、港区民センターにて「いっしょにふえすた2023」を開催しました。ゲストには30歳で全盲となった浅井純子さんをお招きしました。著書「目の見えない私が『真っ白な世界』で見つけたこと～全盲の世界を超ポジティブに生きる～」の通り、いつ治るのかという不安や絶望感から「今がいちばん楽しい」と思えるに至るまで、そして大切にしていることやこれからの夢について、相棒の盲導犬ヴィヴィッドとともに、お話をいただきました。



また、反戦平和や反核、人権をテーマとして活動している各団体の出展を久しぶりに再開し、およそ70名が集ってにぎやかにブース交流をすることができました。東部支部女性部はパワーポイントでこれまでの活動紹介、南部支部女性部はバザーを、北部地区事務職員部は手作り小物をそれぞれ出展し、組合員同士の交流も活発に行われました。



2月4日、たかつガーデンにて近畿ブロック「母と女性教職員の集い」が開かれました。全体会は、元公立保育所の保育士だった田中一歩さん・近藤孝子さん（にじいろi-Ruアイル）による「性の多様性から『じぶん』について考える～誰もが排除されない社会をめざして子どもたちとの出会いからみえてきたこと～」という講演でした。ご自身の経験から、子どもも自分にウソをついていけること、そのことによって、いるのにいないものにされてしまうこと、だからこそ0歳から知る権利はあると考えていると話されました。また、「じぶん」が「じぶん」のままでもいいと言える社会になってほしいとも話されました。

「ともに生きる」分科会では、トランスジェンダーの娘をもつ保護者から「子どもたちの自分らしさ」についての提案でした。司会の土肥いつきさん（現役高校教員、トランスジェンダー生徒交流会主催者）が、「その子にバイアスをかけているのは私たち。その子が違和感を感じなくてもいい社会を」と、まとめられました。

## = 統一地方選挙・市教組推薦候補者 =

大阪市・大阪府下 ～ 全員の当選を勝ち取ろう！ ～



**おもにし 貴文**  
大阪市議会議員選挙  
(東淀川区)



**松崎 とおる**  
大阪市議会議員選挙  
(住之江区)



**野口 ただまさ**  
大阪市議会議員選挙  
(住吉区)



**森山 よしひさ**  
大阪市議会議員選挙  
(浪速区)



**富田 ただやす**  
大阪府議会議員選挙  
(大阪市旭区)



**西川 あり**  
八尾市議会議員選挙



**田中 誠太**  
八尾市長選挙



**たつみ しんじ**  
富田林市議会議員選挙

兵庫県下 ～ 全員が教職員出身！ ～



**小西 ひろのり**  
兵庫県議会議員選挙  
(西宮市)



**やの こうじ**  
神戸市議会議員選挙  
(東灘区)



**おくの 尚美**  
西宮市議会議員選挙



**岸田 まさと**  
伊丹市議会議員選挙



**北野 さと子**  
宝塚市議会議員選挙



**竹内 きよ子**  
明石市議会議員選挙



**古田 ひろあき**  
三木市議会議員選挙

子どもたちに「笑顔」と「豊かな教育環境」を！！